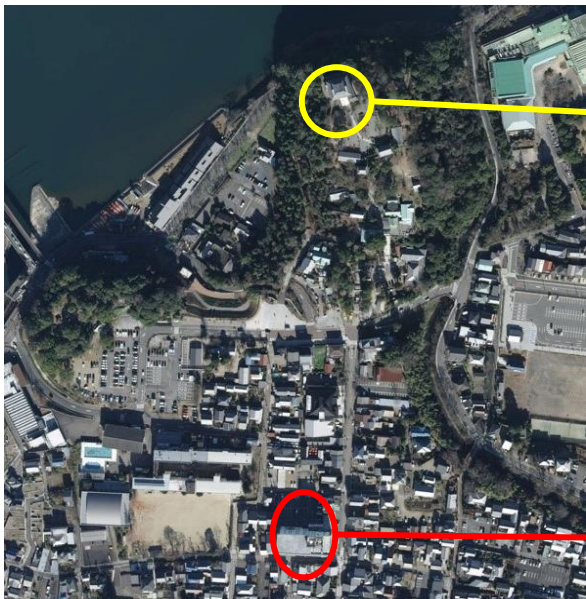


犬山城大手門枳形跡(犬山市福社会館跡地)発掘調査

【調査の目的】

- ・江戸時代、犬山市福社会館跡地周辺には、犬山城内への入口となる大手門とその関連施設（石垣、土堀、堀など）で構成される大手門枳形がありました。
- ・平成23年に当時の福社会館駐車場で実施した発掘調査の結果、大手門枳形の西側にある大手口という空間を構成する堀跡の一部が確認され、この場所は国史跡犬山城跡の追加指定候補地になっています。
- ・史跡の追加指定と今後の利活用について検討するため、地下に堀や土塁などの遺構がどれくらい残されているのか、またそれらがどのような大きさや形だったのかを確認する目的で、令和3年7月から11月にかけて発掘調査を実施しました。



犬山城周辺航空写真



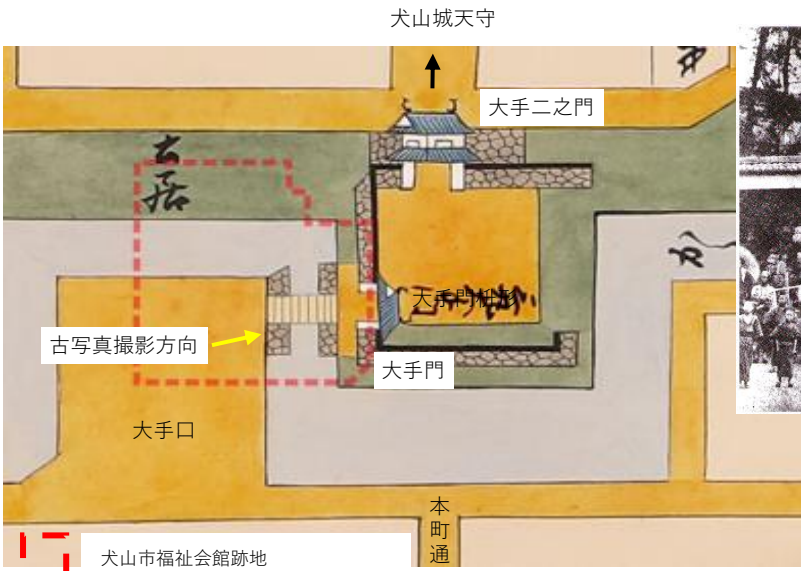
天守

調査地点

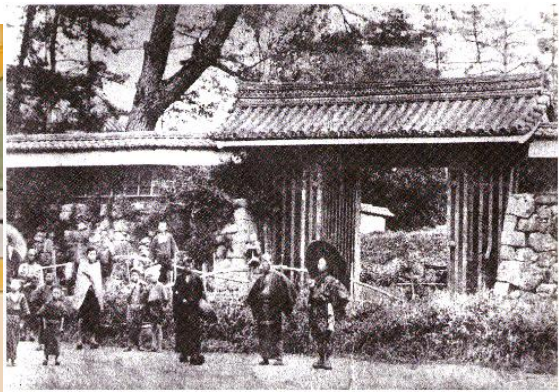
犬山城修復願雛形絵図

安永9年（1780）犬山城白帝文庫蔵

犬山市福社会館跡地と犬山城大手門枳形の位置関係



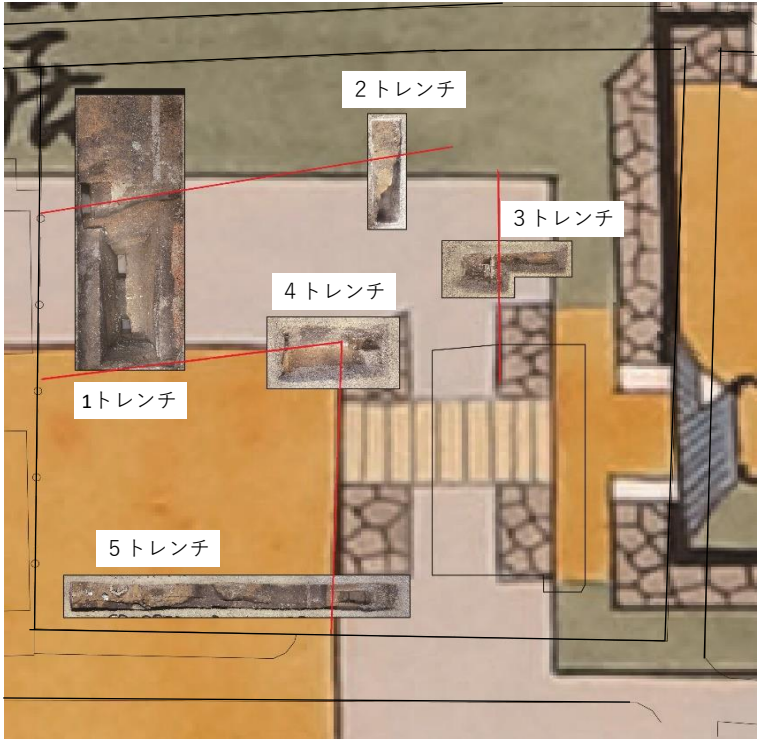
犬山市福社会館跡地
※正確な位置を示すものではありません



大手門古写真 明治初年(1868) 個人蔵

犬山城修復願雛形絵図（拡大図）

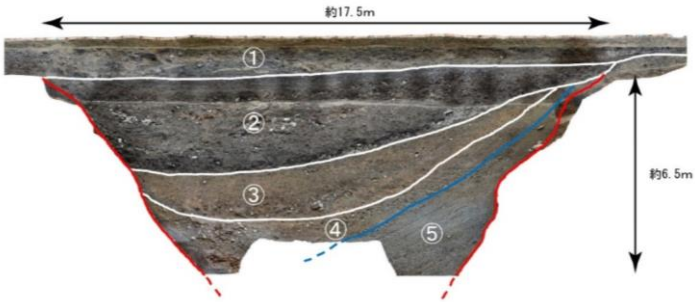
調査成果



堀の位置と想定図 (上が北)

〈1トレンチ〉

- ・1トレンチは、堀の位置や規模、構造などを確認するため堀を横断する形で設定しました。
- ・調査の結果堀の大きさは幅約17.5m、深さ6.5m以上であることがわかりました。
- ・堀の斜面には石垣が築かれておらず、常に水が溜まっていた様子は見られませんでした。



- ①福社会館建設時の整地層
- ②昭和期(戦後)の埋土
- ③④明治から昭和期の埋土
- ⑤廃城後の埋土

1トレンチ堀出土状況 (右が北)

〈2トレンチ〉

- ・ 2トレンチは東西方向に走る堀の位置を確認するため1トレンチの東側に設定しました。
- ・ 調査の結果、堀の北端を確認しました。



2トレンチ堀（右が北）



2トレンチ堀斜面（南から）

〈3トレンチ〉

- ・ 3トレンチは、堀の東端の位置を確認するため、調査区東側に設定しました。
- ・ 調査の結果、堀の東端と廃城後に積まれたとみられる石積を確認しました。



3トレンチ堀(北が上)



3トレンチ石積（西から）

〈5トレンチ〉

- ・ 5トレンチは、南北に走る堀の位置と大手口の状況を確認するため、調査区南側に設定しました。
- ・ 調査の結果、南北に走る堀の西端を確認しました。大手口の部分では遺構は確認されませんでした。



5トレンチ堀(北が上)



5トレンチ堀斜面(北が上)

〈4トレンチ〉

- ・4トレンチは、堀の曲がる箇所を確認するため、調査区中央付近に設定しました。
- ・調査の結果、堀の屈折部を確認しました。



4トレンチ堀(北が上) 赤丸が屈折部



堀屈折部拡大①(北が上)



堀屈折部拡大②(東から)

【まとめ】

- ・犬山城の城内と城外を区画する外堀の一部が、地下に良好な状態で残されていることを確認しました。
- ・堀の規模は、幅約17.5m、深さは6.5m以上で、絵図に記載されている幅10間(約18m) 深さ4間(約7.2m)とほぼ一致することがわかりました。
- ・水のない空堀であることや石垣のない素掘りであることが確認できました。
- ・堀の正確な位置や、東西方向から南北方向に折れ曲がる場所が特定できました。
- ・堀を埋めた土の堆積状況や出土した遺物から、明治6年に犬山城が廃城となった際に土塁を崩して埋め立てられたとみられる層、明治から昭和の古い時期に埋められた層が新旧で2層、戦後に埋められた層の4時期にわたって埋められたことがわかりました。
- ・絵図では、堀は東西方向と南北方向に平行に走っており、大手口は正方形となっていますが、各調査区で確認した堀の端を結んだ結果、大手口東側は南北方向にまっすぐ進んでいるものの、大手口北側はやや北側に振れていることが判明しました。
- ・今回の調査結果をもとに、史跡の追加指定、史跡整備に向けて準備を進めています。